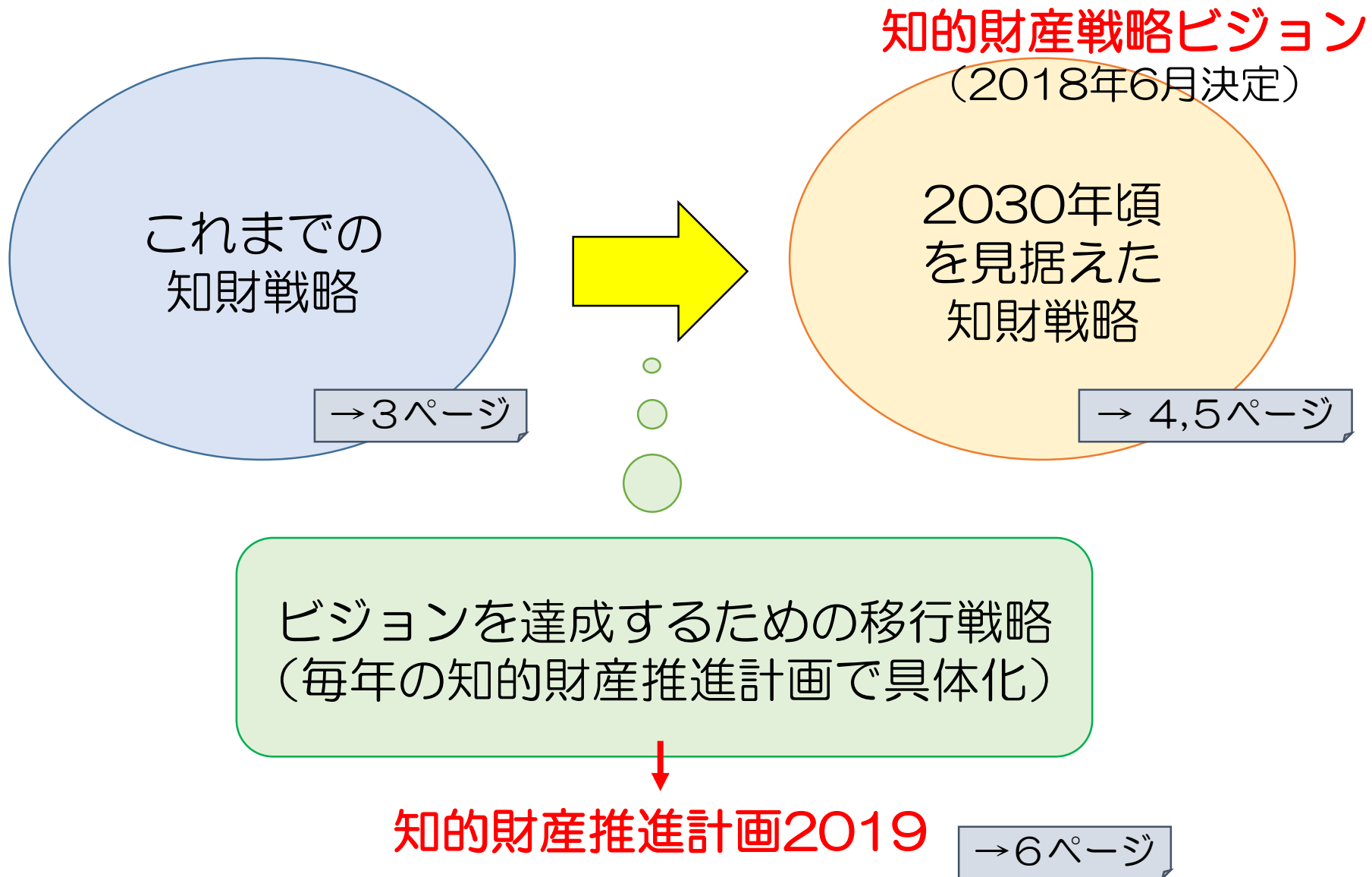


知的財産推進計画2019 概要

2019年6月21日



これまでの知財戦略 (**知的財産立国**の実現)

資源

知財の**保護**強化

大学等の活用
を通じた
知財の**創造**

知財を理解した
人的基盤の充実

ビジネスモデル (価値創造メカニズム)

技術移転、知財
流通を通じた
知財の**活用**

**知的創造
サイクル**

提供価値

適切な権利保護に
より、創作活動を
促し、利益を上げ
て、国富・経済的
価値を増大。

2030年頃
を見据えた
知財戦略

問題点 (課題)

技術だけでイノベーションを起こせない、
経営と知財の結びつきの不足、
「使う」より「守る」意識でオープンイノベーションが萎縮

2030年頃を見据えた知財戦略 (**価値デザイン社会**の実現)

これまでの
知財戦略



ビジネスモデル
(価値創造メカニズム)
新しい多様な価値
(経済的価値に限らない)
を次々に**構想**、発信し、
世界に認められる

資源

多様な個性が発揮
する多面的能力、
日本らしさ、
新しい知的資産

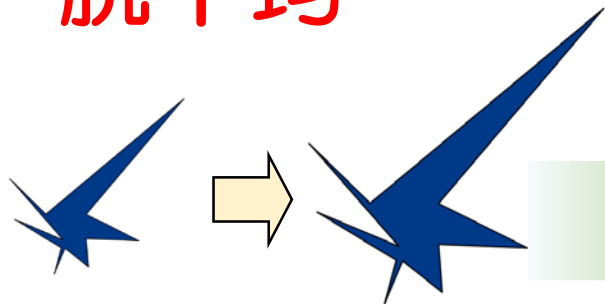
提供価値

(OUTPUT)
様々な新しい価値
(OUTCOME)
世界からの**共感**

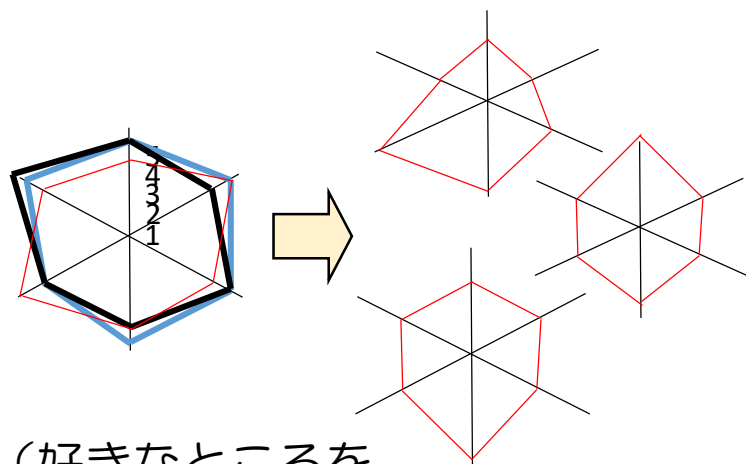
外部環境

供給主導から需要主導へ、モノからコト消費へと比重が移行、
共感やシェアリングの重視、SDGsに対する認識向上

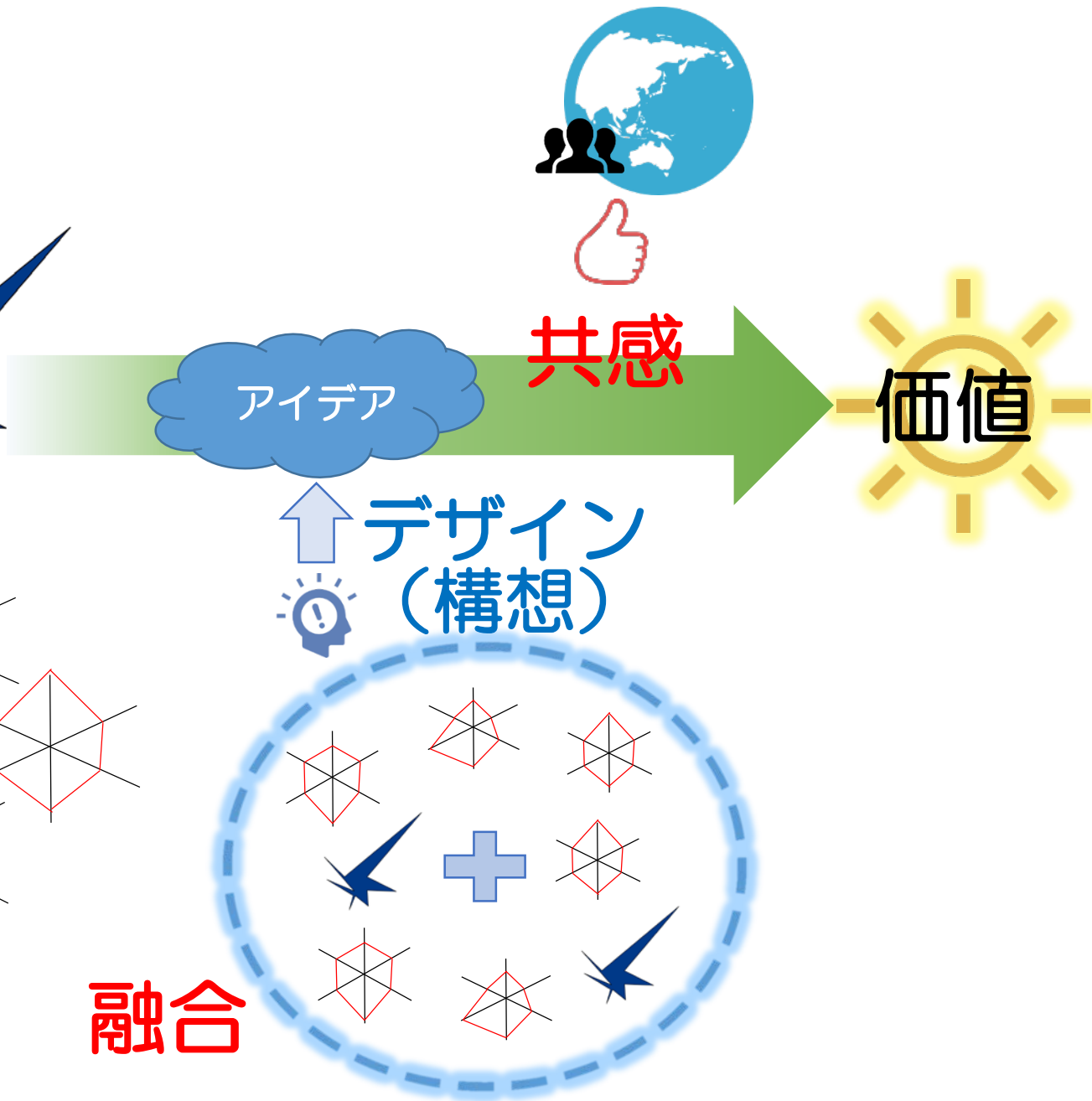
脱平均



(異才を認めて伸ばす)



(好きなところを
見つけて伸ばす)



「価値デザイン社会」の実現

～ 夢×技術×デザイン=未来 ～

(第一の柱)
「脱平均」

「脱平均」の発想
で個々の主体を強
化し、チャレンジ
を促す

(第二の柱)
「融合」

分散した多様な個
性の「融合」を通
じた新結合を加速
する

(第三の柱)
「共感」

「共感」を通じて
価値が実現しやす
い環境を作る

「知的財産立国」を基盤に

(1) 中長期の方向性

- ① 尖った才能を開花させる
- ② 尖った人・企業がチャレンジしやすい環境を整備する
- ③ 尖った人・企業をサポートする



(2) 具体的施策

○ 創造性の涵養・尖った人材の活躍

- EdTechを活用し「学びの個別最適化」、文理融合・課題解決型STEAM教育の実現に向け取り組む
- 学校と地域が協働し、芸術文化等の優れた才能を発揮する等の地域における活動の環境整備を行う。
尖った人材のための課外活動や新しい学びの場を容易に探せる仕組みを検討する

○ ベンチャーを後押しする仕組み

- スタートアップ・エコシステムの構築に向け、拠点都市形成に向けた集中支援を行うとともに、公共調達における中小・ベンチャー企業の活用促進等の各施策を推進する

○ 地方・中小の知財戦略強化支援

- 中小企業の課題に対し知財を活用した解決を図る「知財ビジネス提案書」の作成支援を地銀等に行う
- 中小企業の技術情報等の管理に関する指導助言や認定制度の活用により、管理体制の底上げを図る

○ 知的創造保護基盤の強化

- 民事訴訟手続等のIT化に向けて、オンラインでの書面提出やウェブ会議による手続きを可能にするなどの制度的検討を進め、2019年度中の法制審議会への諮問を目指す

○ 模倣品・海賊版対策の強化

- インターネット上の模倣品・海賊版による被害拡大を防ぐため、関係省庁等において総合的な対策メニューを実施するために必要な取組を進める

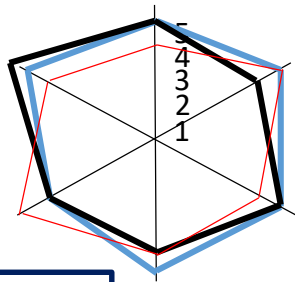
学校・大学／課外

社会人

均等に万遍なく何でも出来る人材

全く枠に収まらないが何か突き抜けている人材

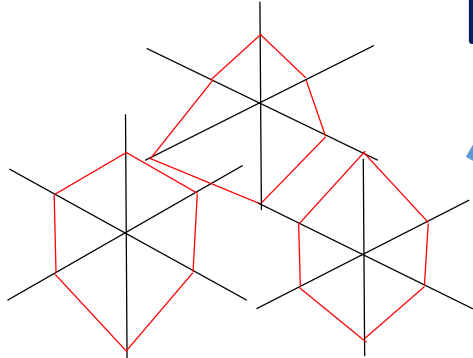
新たな価値創造を行える人材



好きなところ
を見つけ・気
づき・伸ばす



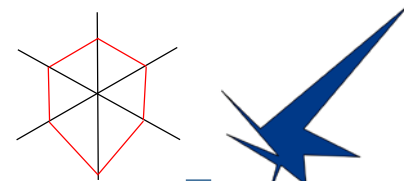
少し尖った人材へ



潰さない、
活躍の場を
作る

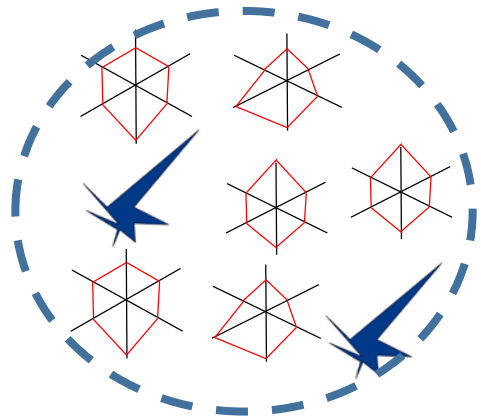


尖った人材
を受け入れ
る環境醸成



デザイン思考

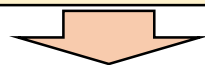
価値創造を行う人材が集い、
活躍できる場



目指すべき人材像・環境

(1) 中長期の方向性

- ① 実質的なオープンイノベーションを加速する
- ② 個性、アイデアが出会う場としてのプラットフォームを整備・活用する
- ③ データ・AIを活用した価値のデザインを円滑化する



(2) 具体的施策

○ オープンイノベーションの促進

- ・ 実質的なオープンイノベーションへの行動変容につなげるため、知的財産戦略本部に設置した価値共創タスクフォースで打ち出された経営者や個人が備えるべきマインドセットの浸透と実践を図る
- ・ 大学・国研の研究成果の社会実装を促進するとともに、財源の多様化を一層進めるため、企業と大学・国研による大型共同研究開発を効果的に行う仕組みについて、今年中に検討する

○ 知的資産プラットフォーム

- ・ SDGsプラットフォームについて、試行実証の状況も踏まえつつ、G20等の国際会議での発信等を通じて国内外のアクターの連携・協働を促し、SDGs達成に向けたイノベーションの創出を促進する

○ データ・AI等の適切な利活用促進に向けた制度・ルール作り

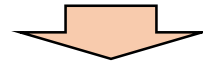
- ・ データヘルス改革を着実に推進するため、健康・医療・介護のビッグデータ連結・活用やがんゲノム情報・AI開発基盤に必要なデータの収集・利活用等に関するサービスの提供に向け着実に取り組む
- ・ 農業データ連携基盤の機能を強化・拡張し、農作物の生産のみならず、フードチェーン全体でデータの相互活用が可能なスマートフードチェーンを構築する。

○ デジタルアーカイブ社会の実現

- ・ 様々な分野におけるデジタルアーカイブの構築・利活用の推進や連携を図るとともに、ジャパンサーチの本格公開を目指し、利活用モデル、つなぎ役の役割分担の明確化などの検討を行う

(1) 中長期の方向性

- ① 共感を通じた価値の実現を円滑化する
- ② 調達など実際の経済活動において、共感が取引価格に反映される例を増やす
- ③ 「共感」を意識した新しい知財システムを作る
- ④ 「世界からの共感」を軸としてクールジャパン戦略を再構築する



(2) 具体的施策

○ 各主体による価値のデザインを奨励

- ・ 経営デザインシートの定着に取り組むとともに、企業におけるガバナンスの向上、金融機関における事業性評価、及び中小企業における経営革新や経営支援に焦点を当て、同シートの活用を促す

○ クリエイション・エコシステムの構築

- ・ コンテンツ利活用促進のため、権利情報データベースの整備、権利処理プラットフォーム構築の実証事業を実施し、またブロックチェーン技術等を活用した権利処理・利益配分の仕組みを検討する
- ・ 日本の多様な楽曲について、海外市場への進出に必要な外国語メタデータの整備を支援する

○ 国内外の撮影環境改善等を通じた映像作品支援

- ・ 外国映画のロケーション誘致に関する実証調査を行い、地域経済振興への効果検証を行う
- ・ ロケ撮影に関する許認可手続きの共有や、ロケ地情報の集約により、国内外への発信を強化する

○ クールジャパン戦略の持続的強化

- ・ 新たなクールジャパン戦略を本年夏ごろまでに策定し、関係省庁が協力して実施する

目指すべき姿(ビジョン)

価値デザイン社会 ～夢×技術×デザイン=未来～

経済的価値にとどまらない多様な価値が包摂され、そこで多様な個性が多面的能力をフルに発揮しながら、「日本の特徴」をもうまく活用し、様々な新しい価値を作って発信し、世界の共感を得る

実現のための移行戦略

A ; 「脱平均」の発想で個々の主体を強化し、チャレンジを促す

B ; 分散した多様な個性の「融合」を通じた新結合を加速する

C ; 「共感」を通じて価値が実現しやすい環境を作る

将来に向けた価値のデザイン

(経営デザインシートの考え方の普及、デザイン経営、知財の見える化・適正な価値評価の実行)

オープンイノベーションの促進

ベンチャーを後押しする仕組み(スタート)

アップエコシステム、ベンチャーからの調達支援)

創造性の涵養・尖った人材の活躍

地方・中小の知財課題解決支援

知財創造保護基盤の強化

模倣品・海賊版対策の強化

知的資産プラットフォーム

(構想クラウドの構築、SDGsプラットフォームの活用)

データ・AIの適切な利活用促進に向けた制度・ルール作り

デジタルアーカイブ社会の実現

国内外の撮影環境改善等を通じた映像作品支援

クリエイション・エコシステムの構築

(ブロックチェーン等の新しい技術を活用した著作物の管理・適切な利益配分、新しいコンテンツ流通環境に対応した海外展開促進)

クールジャパン単独各の持続的強化